

OPPAMA
えき・まち・みち
DESIGN
CENTER

追浜

えき・まち・みち
ビジョン

2025 年 3 月

追浜えき・まち・みちデザインセンター

目次

1

追浜えき・まち・みちビジョンとは

- 1-1. 策定の背景と目的 01
- 1-2. ビジョン対象区域 02
- 1-3. 追浜駅周辺地区グランドデザインからの深度化内容 02

2

追浜えき・まち・みちの将来像

- 2-1. 将来像の考え方～どんなえき・まち・みちを目指すのか～ 03
- 2-2. 追浜えき・まち・みちの将来像 07
- 2-3. 追浜で実現する暮らしのイメージ 35

3

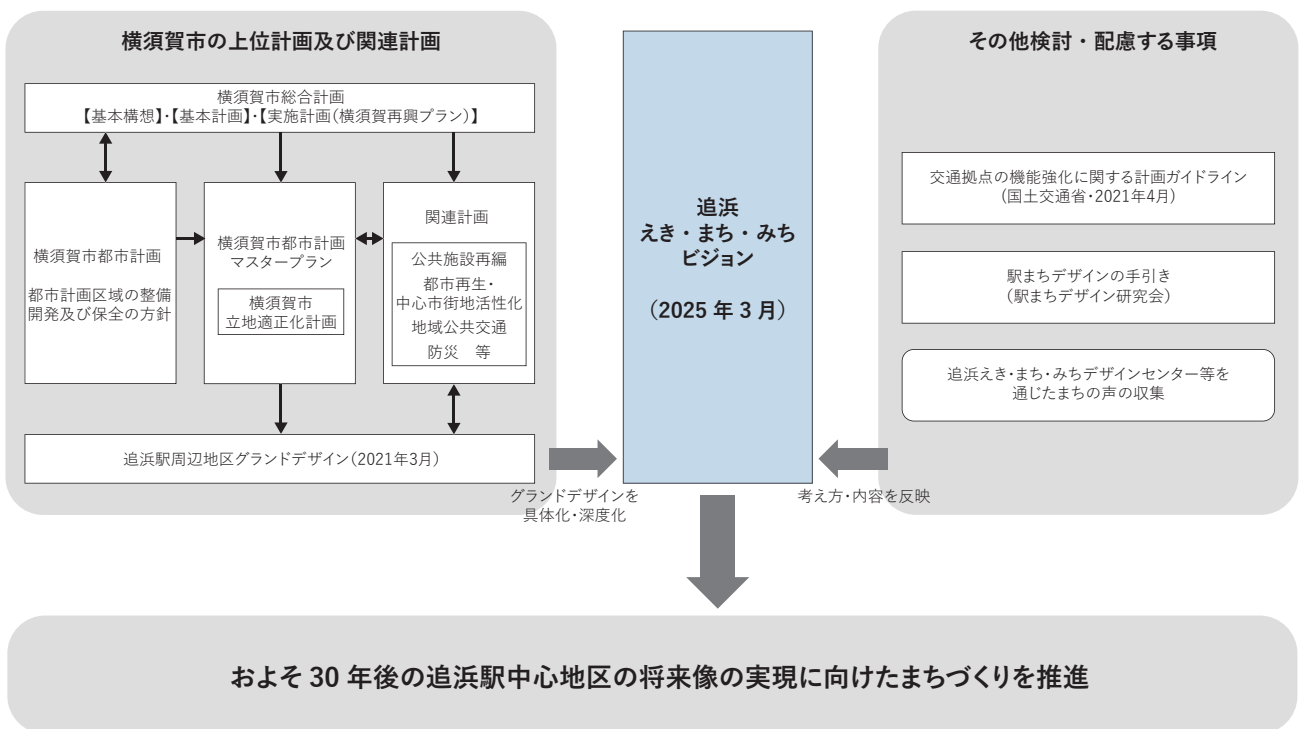
追浜えき・まち・みちの将来像実現にむけて

- 3-1. 将来像の実現に向けた進め方 37
- 3-2. みんなでえき・まち・みち空間を育てるためのまちづくり組織のありかた 37
- 3-3. まちづくり組織の活動 37

- 参考 追浜えき・まち・みちビジョンの検討経緯 39

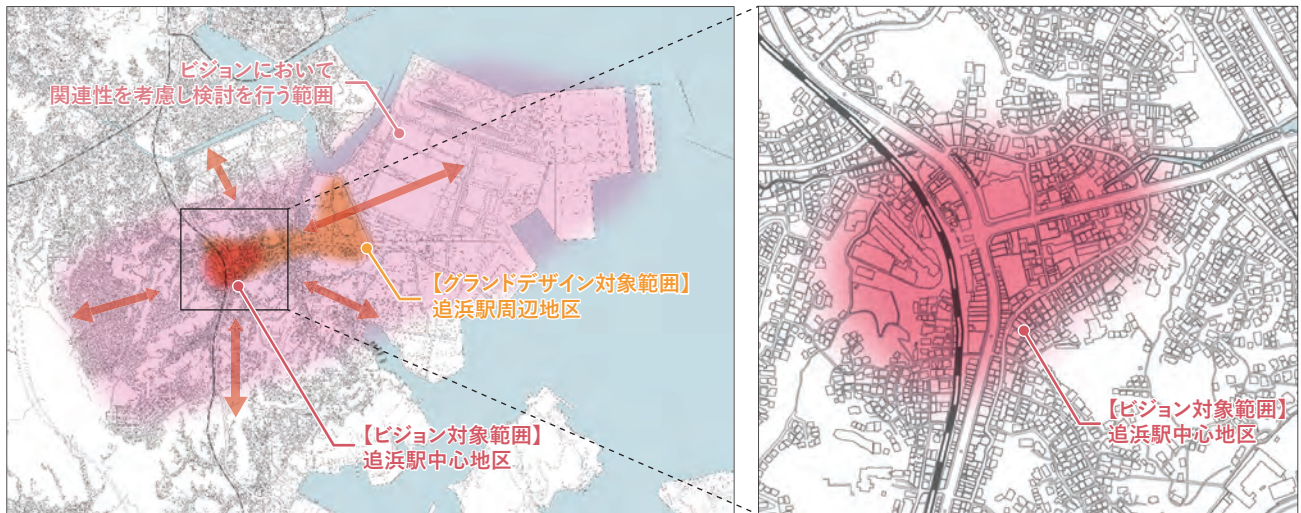
1-1. 策定の背景と目的

- ・ 追浜駅周辺地区は、「横須賀市再興プラン 2022-2025」で市内の最重要施策として、また「横須賀市都市計画マスタープラン」では重要な都市機能が集積する都市拠点として位置づけられています。
- ・ こうした中、追浜駅周辺地区において複数の事業が同時に進んでいる状況を踏まえ、追浜駅周辺地区のまちづくりを推進するための基本方針となる「追浜駅周辺地区グランドデザイン」が令和3年3月に策定されました。また、交通結節点の機能強化について「追浜駅交通結節点整備事業計画」が令和3年3月に策定され、「追浜駅交通ターミナル整備事業」が令和3年4月に事業化されました。さらに、「追浜駅前第2街区第一種市街地再開発事業計画」が令和5年5月に事業認可されるなど、個別の開発計画も進行しています。
- ・ 追浜駅周辺地区のまちづくりをさらに推進するためには、目指すべきまちの将来像を、「使い手」と「つくり手」が共有しながら進める必要があります。
- ・ 本ビジョンは、追浜駅周辺地区グランドデザインに示された内容をより具体化、深度化するとともに、対象範囲を駅近傍の「追浜駅中心地区」に絞り、えき・まち・みち一体のまちづくりの方向性を示すものです。策定にあたっては、追浜地域の皆様と「ビジョン検討委員会」「ビジョン検討ワーキング」を開催し検討を実施しました。
- ・ なお、本ビジョンはおおよそ30年後の追浜駅中心地区の将来像として内容を記載しています。



1-2. ビジョン対象区域

- ・本ビジョンは、追浜駅周辺地区グランドデザインの対象区域のうち「追浜駅中心地区」を対象区域として策定します。
- ・策定にあたっては、追浜駅周辺地区グランドデザインの対象区域や、広域エリアとの関連性を考慮します。



1-3. 追浜駅周辺地区グランドデザインからの深度化内容

追浜駅周辺地区グランドデザイン
(2021年3月 横須賀市策定)

追浜駅から横須賀スタジアムまでの範囲を含む、追浜駅周辺地区の将来像を描く。

■対象範囲



■内容

上図に示すように、対象範囲内に8つのゾーン、5本の軸を設定し、それぞれの将来に向けた方向性を記載している。

<キャッチフレーズ>
～追風～ 追浜 いつも未来の風吹く街
「快適で安全なわくわくする ヨコスカ未来の玄関口」

<まちづくりの目標>

- ・個性と魅力にあふれ、誰もが楽しめるまちづくり
- ・スポーツを核としたまちづくり
- ・安全安心で利便性が良く、住み心地の良いまちづくり

深度化

追浜えき・まち・みちビジョン
(2025年3月 追浜えき・まち・みちデザインセンター策定)

複数の事業が進行する追浜駅中心地区を対象に、グランドデザインを深度化し、より具体的な将来像を描く。

■対象範囲



■内容

コンセプトを設定し、将来像と誘導方針を示す。

<コンセプト>
OPPAMA STEP (オッパマステップ)

<将来像>

- ・人々の居場所になり、様々な活動ができる広場があるまち
- ・ストリートに活気があり、歩きやすく楽しいまち
- ・快適に安全に楽しく移動できるまち
- ・子育てしやすく、多世代が生活しやすいまち
- ・市民×教育機関×企業等の交流が盛んなまち
- ・緑と水を豊かに感じられるまち
- ・災害時も安心安全が確保されるまち

誘導方針

2-1. 将来像の考え方～どんなえき・まち・みちを目指すのか～

まちの声

まちのポテンシャル

まちの課題

追浜えき・まち・みちのコンセプト

OPPAMA STEP
オ ッ パ マ ス テ ッ プ


Synergy
シナジー/相乗効果

ひらかれた場で
交流を生む


Timeless
タイムレス/永久的な

安心して
暮らし続けられる


Environment
エンバイロメント/環境

快適で豊かな
環境がある


People
ピープル/人々

多世代の多様性ある
人々が集まれる

追浜えき・まち・みちの将来像

追浜のまちは、自然や歴史に加え、様々な人々の活動が積み重なることでつくられてきました。これらの**ステップ**すべてが、追浜らしさを形づくっています。そしてこれからは、複数のまちづくり事業が段階的に進み、追浜は横須賀市の北の玄関口として新たなまちに進化しようとしているところです。

追浜えき・まち・みちのコンセプトである“**OPPAMA STEP**”には、追浜が積み重ねてきたステップである「多様な活動と人のつながり」を継承すること、そして新たなステップとなる「人々のチャレンジ」を応援することにより、一歩ずつ**ステップアップ**していこうという思いが込められています。

Synergy（シナジー / 相乗効果）

市民、教育機関、企業等が生き生きと活動し、そのつながりから相乗効果が生まれるように、ひらかれた場をつくって交流を生んでいきます。

Timeless（タイムレス / 永久的な）

自然環境の保全や活用、子育て環境の整備や子供たちがまちを知る機会の創出、移動手段の確保、地域マネジメント、災害時の安全確保等を通じ、将来にわたり安心して暮らし続けられるまちにします。

Environment（エンバイロメント / 環境）

広場やストリートで人々の活気が生まれるよう、緑や水、バリアフリー環境、人の活動が滲み出す景観デザインを重視し、快適性と豊かさを兼ね備えた環境を整えます。

People（ピープル / 人々）

子どもから高齢者まで多世代の人々、また住民だけでなく就業者や来街者、そして外国人など多様な人々が目的をもって集まれるよう、都市機能を整備します。



2-1. 将来像の考え方～どんなえき・まち・みちを目指すのか～

まちの声

- ・追浜えき・まち・みちデザインセンターの拠点に寄せられた声
- ・追浜えき・まち・みちデザインセンターが、拠点・シンポジウム・社会実験で行ったアンケート
- ・本ビジョン策定にあたって実施したビジョン検討委員会等での意見

まちのポテンシャル

立地特性

- ・追浜駅周辺は、枢要な都市機能の集積する都市拠点と位置付けられている。
(参考：横須賀市都市計画マスタープラン)
- ・追浜駅は、京急本線と並行する広域道路網（国道16号、国道357号）及び直交する市道追浜夏島線の接点に位置し、交通結節点や災害時の移動・情報拠点として重要な位置づけである。
(参考：神奈川県広域道路交通計画)

人口

- ・横須賀市全体では人口が減少している一方、追浜地域は大規模マンション建設等の影響により、転入超過傾向にある。
(参考：横須賀市人口ビジョン)
- ※追浜地域：浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台

歴史・企業等

- ・かつての軍用地から、自動車・造船を中心とする工業地帯に転換。大規模な工場が進出したことで発展が加速した。
- ・企業等の進出をきっかけに、宅地開発と移住、商店街のにぎわい形成が進んだ。
- ・工場・研究所や歴史遺産等は、見学のため一般にも開かれる等、特徴的な資源になっている。
(参考：新・追浜歴史年表)

自然

- ・海、山、川の自然に囲まれた地域である。
- ・貝山緑地や鷹取山周辺には特徴ある緑地が広がり、市街地を鷹取川が流れるなど、居住地の近くで自然に親しめる。
- ・追浜夏島線から鷹取山を望む風景、駅側や山から海を望む風景、鷹取川の風景は、追浜のイメージを形作る上で象徴的な景観となりうる。
(参考：横須賀市みどりの基本計画)

商店街・町内会・観光協会等

- ・旧道を中心に界限性のあるまちが形成されてきて、1960年代以降には商店だけでなく娯楽施設も立地するなど大いににぎわった。
(参考：新・追浜歴史年表)
- ・個性豊かな個人事業者が所属する商店街がある。
- ・37（2024年11月1日時点）の町内会・自治会や、観光協会、企業、NPO等がそれぞれがイベント等を行っている。
(参考：追浜駅周辺地区グランドデザイン)

まちの課題

居場所になる空間がない

- ・追浜駅周辺地区は、建物が密集して建ち、大きな道路や線路による動線の分断がありオープンスペースが不足しているため、多様な人が気軽に過ごせる居場所になる空間がない。
- ・追浜駅を降りてはじめに触れる駅前空間において、追浜の魅力である海・山・川等の自然環境、地域に暮らす人々の息遣い、地域に根付く企業等を感じる事が難しい。

商店街の衰退と訪問目的性低下

- ・個人店が減り、シャッターが下りている店舗が増えて、商店街のにぎわいの低下が進んでいることで、訪問の目的性が薄くなっている。
- ・道路拡幅で商店街の連続性が絶たれることが危惧される。

移動がしづらい

- ・バス・タクシー乗降場がまちなかに点在して分かりづらく、駅からアクセス性が悪い。また国道16号を横断するデッキはバリアフリーになっておらず、地上は歩車が交錯し危険である。
- ・違法駐輪が多く歩行を阻害しており、景観面でも悪影響がある。
- ・駐車場が少なく路上駐車が多くの、渋滞や事故の原因となっている。
- ・国道16号、市道追浜夏島線の渋滞により周辺からアクセスしにくい。

子育てや生活を支える都市機能が充分ではない

- ・都市へのアクセス性の良さから住宅地として人気の高いエリアだが、子育てを支える施設や、子育て世代の親と子のための居場所が充分にあるとは言えない。
- ・子育て世代に限らず、人々の生活を支える都市機能が充分でなく、外の地域へ買い物等に出るしかない。

地域交流が少ない

- ・追浜には、「おっぱままつり」をはじめとするイベントや、企業が主催するスポーツイベント等、住民や来街者が交流できるイベントがすでに存在する。一方で、日常的に地域の市民・教育機関・企業等の活動を感じられる機会や交流する機会がなく、存在が活かしきれていない。

まちなかで地域の資源を感じられない

- ・追浜駅中心地区では、山、海、川の周辺の自然景観や、緑や水を感じられる仕掛けが不足している。
- ・地形に沿って曲がりくねる駅周辺の道や国道16号沿いで、人々の活動がストリートに染み出している風景、まちの特徴的な要素が滲み出すような景観形成ができていない。

災害対策が不十分である

- ・追浜駅中心地区や周囲において、土砂災害警戒区域や津波の浸水区域が指定され、市街地では建物の老朽化も進んでいる。
- ・災害時の拠点となり、情報発信をしたり帰宅困難者を受け入れる施設が充分でない。
- ・いざというときの助け合いにつながる地域コミュニティが希薄になりつつある。

OPPAMA STEP

OPPAMA

STEP

Synergy・Timeless・Environment・People

シナジー(相乗効果)

タイムレス(永久的な)

エンバイロメント(環境)

ピープル(人々)

えき・まち・みちの将来像

誘導方針

〈将来像実現に向けて、追浜駅中心地区で目指す姿〉

人々の居場所になり、
様々な活動ができる広場
があるまち

- ▶ 日常の居場所にもイベントにも使える、
まちのシンボルとしての広場がある
- ▶ 多世代の日常の居場所となる小さい広場が
点在している

ストリートに活気があり、
歩きやすくて楽しいまち

- ▶ 複数の開発・商店街が連携した多様な都市機能
集積により、まち全体での回遊が生まれている
- ▶ 1階・2階に歩きやすい歩行者空間があり、
商店街のにぎわいが続いている

快適に安全に楽しく
移動できるまち

- ▶ 公共交通を中心に、周辺の広域一帯へアクセス
しやすい移動環境となっている
- ▶ 公共交通の乗り換えが便利で、
アクセスしやすく歩きやすい空間になっている

子育てしやすく、
多世代が生活しやすいまち

- ▶ 子育て世代をはじめとした多世代の生活を支える
施設がある
- ▶ 多様な人々が安心して過ごせる環境が、
地域の協力で作られている

市民×教育機関×企業等の
交流が盛んなまち

- ▶ 市民・教育機関・企業等が活動・発信できる
駅前の拠点がある
- ▶ 追浜の歴史や情報に触れられる場所がある

緑と水を豊かに
感じられるまち

- ▶ 緑の空間があり、広域の緑の軸がつながっている
- ▶ 緑や水を感じられる街路景観が形成されている

災害時も安心・安全が
確保されるまち

- ▶ 災害時の行動を支える防災拠点がある
- ▶ 日常的に広場等を使いこなすことで、
非常時にスムーズな対応ができる

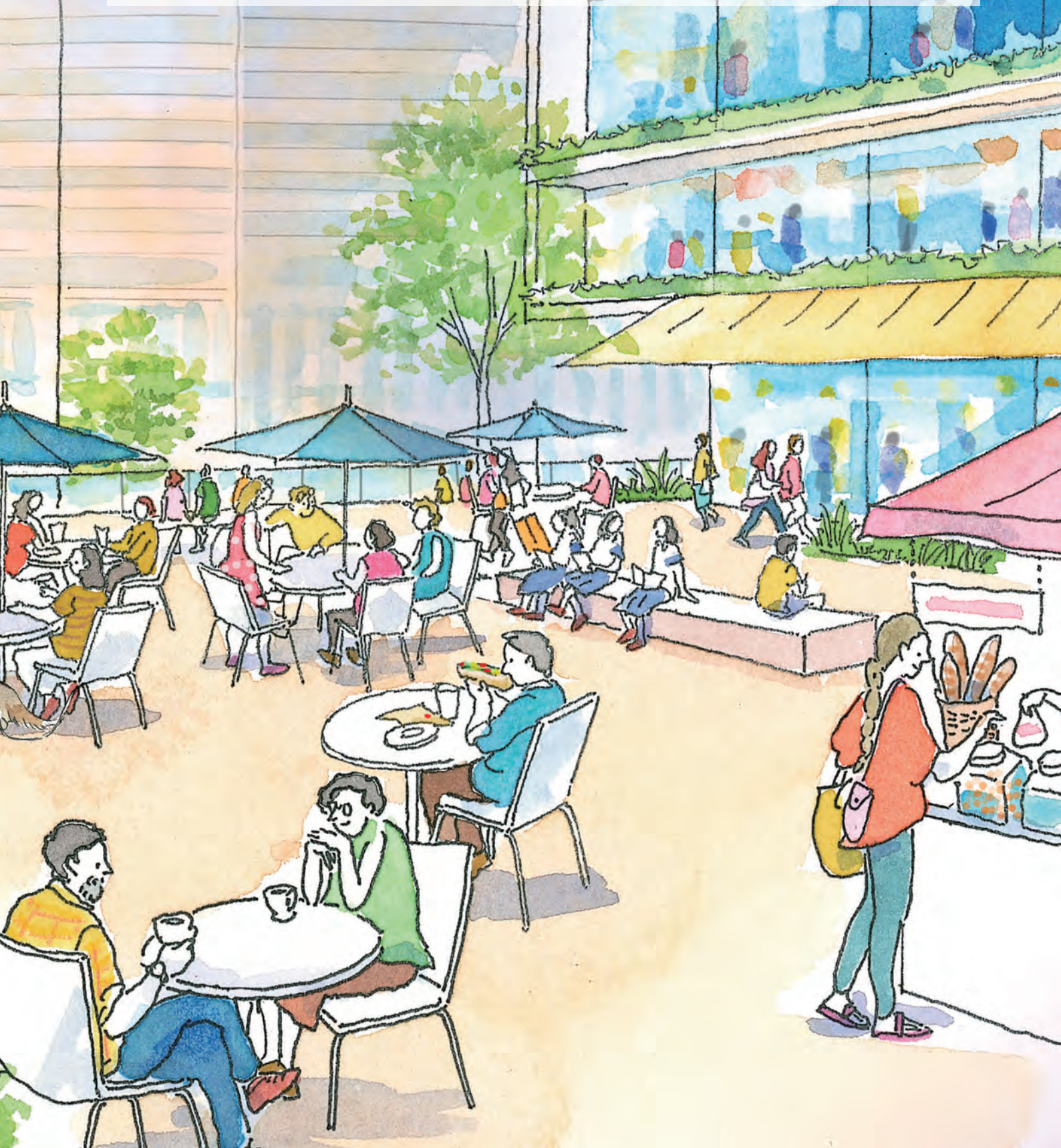
追浜えき・まち・みちの将来像

人々の居場所になり、
様々な活動ができる広場があるまち



鷹取川や、深浦湾など海を身近に感じる環境、鷹取山・雷神社等周辺の緑豊かな環境を活かし、それらと連続するような緑や水を感じられるパブリックスペースが追浜駅中心地区に点在しています。

追浜に暮らす人と訪れる人にとってシンボルとなる開放的な広場とともに、まちなかに日常の居場所となる小さな広場空間がいくつもあることで、まちの中に様々なアクティビティの受け皿が生まれています。



人々の居場所になり、 様々な活動ができる広場があるまち

シンボルになる広場と、日常の居場所となる小さな広場を点在させ、まちの中に様々なアクティビティの受け皿がある。



追浜駅中心地区に点在する広場のイメージ

【参考】社会実験「OPPAMA DECK WEEK」

将来的な駅前の公共空間の在り方や活用方針を検討するため、追浜駅前のデッキ空間を活用した。

1週間にわたり、日常の滞留空間や、追浜にゆかりのある企業の紹介パネル等を設置し、休日はマーケットを開催した。

休憩や飲食での利用、友人同士の交流や親子連れで立ち寄り子どもが遊ぶ姿も見られた。デッキ上に座れるスペースを設置することへの要望の多さや、デッキ上でのイベント開催の需要があるという示唆を得た。

期 間 : 2024 年 10 月 19 日 (土) ~ 25 日 (金)

時 間 : 10 時半 ~ 18 時 (最終日は 17 時)

主 催 : 追浜えき・まち・みちデザインセンター

後 援 : 横須賀市経営企画部まちづくり政策課

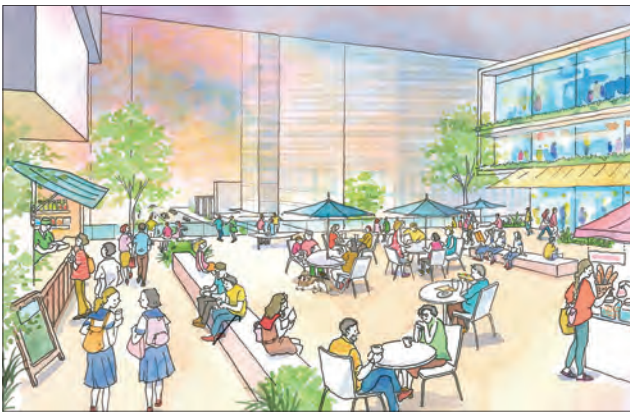
協 力 : 追浜観光協会・国立研究開発法人海洋研究開発機構
京浜急行電鉄株式会社・日産自動車株式会社追浜工場
株式会社横浜 DeNA ベ이스ターズ (50 音順)

利用者数 : 平日約 100 人 / 日、休日約 220 人 / 日



日常の居場所にもイベントにも使える、まちのシンボルとしての広場がある

- ・ 追浜に暮らす人、訪れる人等、多様な人々の連携の起点となる広場がある。
- ・ 開放的なつくりとし、まちのシンボルとして親しまれる空間となっている。
- ・ 日常の居場所になるだけでなく、市民・教育機関・企業等がイベント・情報発信を行うことで、多様な活動が重なり合う地域のにぎわいの拠点となっている。



まちのシンボルとなる広場



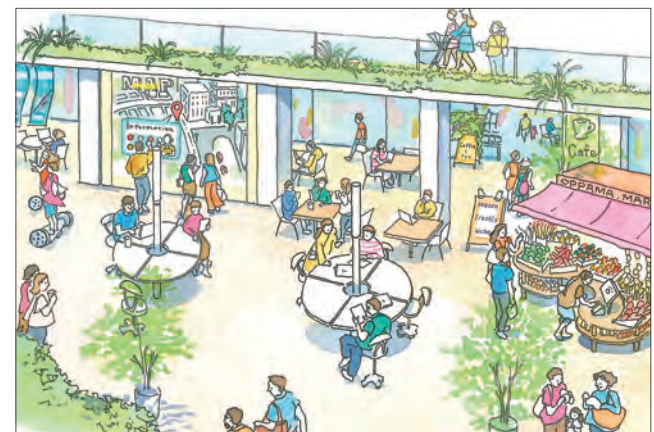
広場でのイベント開催

多世代の日常の居場所となる小さい広場が点在している

- ・ 人々の日常の居場所づくりと交流促進のため、座れる場所や、緑や水を感じられる空間等が設けられた、快適に滞在できる小規模な広場がある。
- ・ 多世代の居場所となるよう、ベビーカー・車いすでもアクセスしやすくし、バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した快適で安全な設えとなっている。
- ・ 多様な使い方に対応できるように、広場周辺の都市機能と連携し、それぞれが特徴を持ったスペースとなっている。（飲食できる、本が読める、子どもが遊べる、デスクワークができる等）



日常の居場所となる広場（屋内）



日常の居場所となる広場（屋外）

追浜えき・まち・みちの将来像

ストリートに活気があり、
歩きやすくて楽しいまち



追浜駅中心地区の道路沿いは、**既存の商店街のにぎわいを継承し促進する、**

個性的な路面店が集まる界索性・回遊性のあるストリートとなっています。

ストリートにはまちで**新しくチャレンジをしたい人を支援**するような場所を設けることで、
まちなかに新しいお店が増え、新たなにぎわいが生まれています。

1階および2階レベルには自由に歩き回ることができる歩行者空間があり、

東西南北すべての方向に誰もが快適に移動できるまちとなっています。

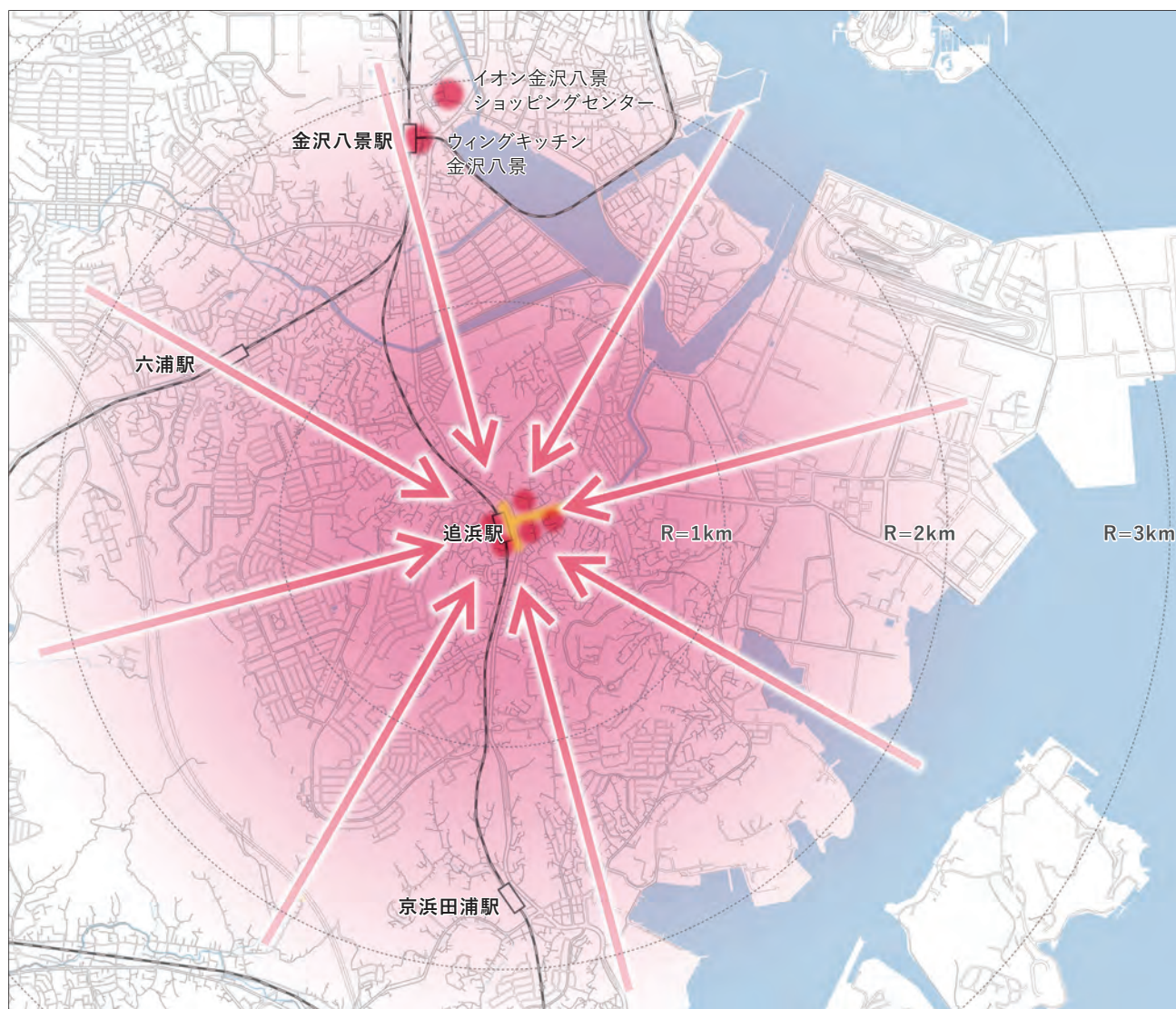
さらに、歩きながら人々の活動が建物の中から見えたり、軒先に活動が染み出してくるなど、
ヒューマンスケールで居心地の良い雰囲気が感じられます。



ストリートに活気があり、歩きやすくて楽しいまち

複数の開発・商店街が連携した多様な都市機能集積により、まち全体での回遊が生まれている

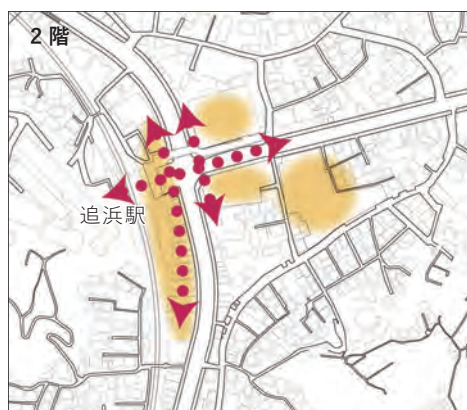
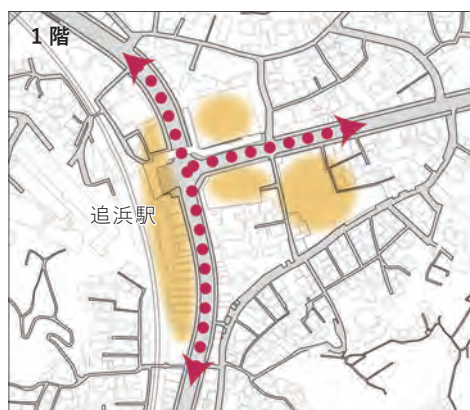
- ・ 追浜駅中心地区の複数の開発と商店街が連携し、商業だけでなく公共的な施設等、訪れる目的となる多様な都市機能が集積することで商圈が広域化され、人が集まる場所となっている。
- ・ 集まった人々が滞在したり、交流できるような複数の場がある。
- ・ 商業については、個性ある個人店も含めて、さまざまな飲食店舗・物販店舗が連携しながら、多様な業態が集積している。
- ・ 新しいチャレンジを支援する場所や仕組みがあることで、まちなかに新しいお店が増えるなど常に新しい変化がある。



追浜駅周辺の商圈ポテンシャル

1 階・2 階に歩きやすい歩行者空間があり、商店街のにぎわいが続いている

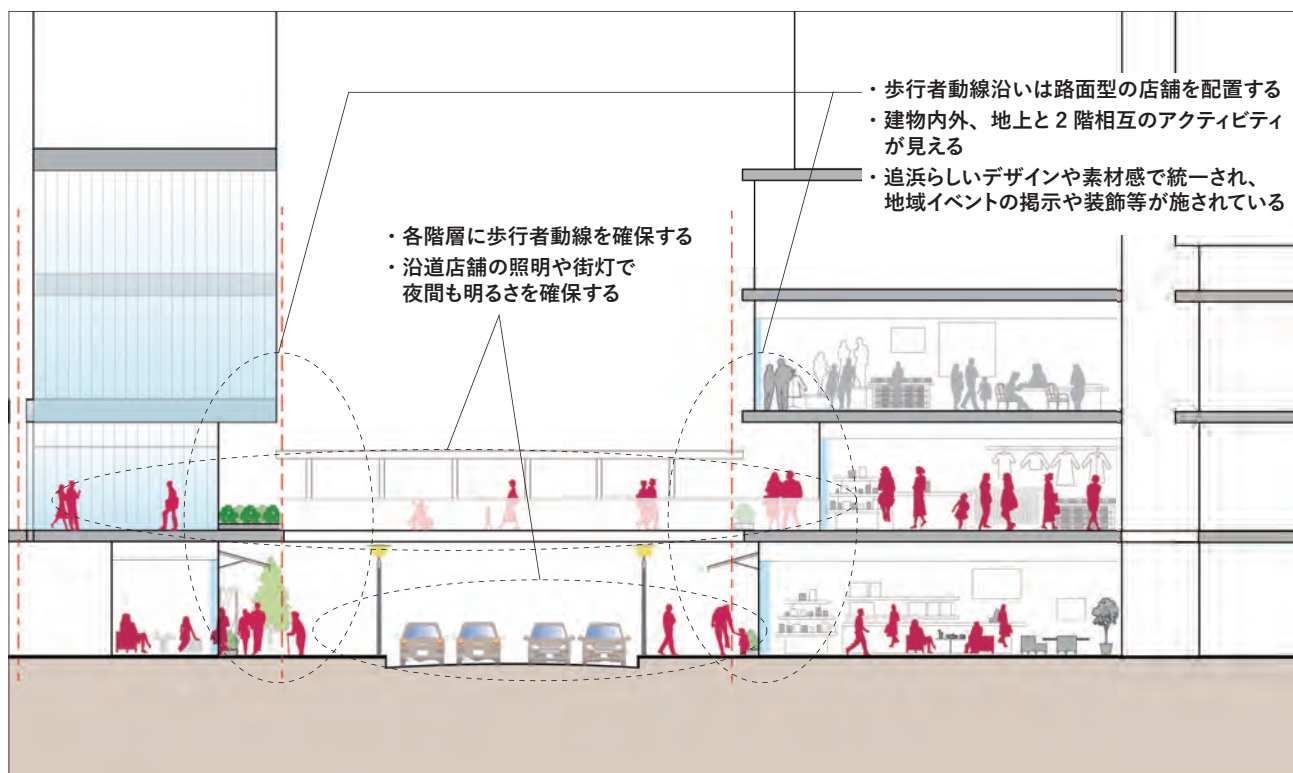
- ・快適でバリアフリーなえき・まち・みち空間のため、1階と2階を中心に歩行者動線が確保され、1階と2階をつなぐ上下動線が分かりやすい位置にある。
- ・鉄道や道路、地形による分断を解消することで、東西南北のあらゆる方向へ人の流れが生まれ、鷹取地区へもアクセスが良くなっている。
- ・歩行者空間は夜間でも明るさが確保され、安心して通行できる。
- ・1階と2階には、活気のあるストリートを形成するため、路面型の店舗が配置されている。
- ・人の動きや活動が見えるように、低層部は透過性の高い設えになっており、建物の軒先を積極的にテラス席として利用するなどの工夫がされている。
- ・追浜らしく、山、海、スポーツ等の面影を感じられるデザイン・素材感で統一され、地域イベントの案内掲示等により人々の活力が感じられる。



◀●●●▶ 主な歩行者動線

※図上の動線は詳細位置を規定するものではない。

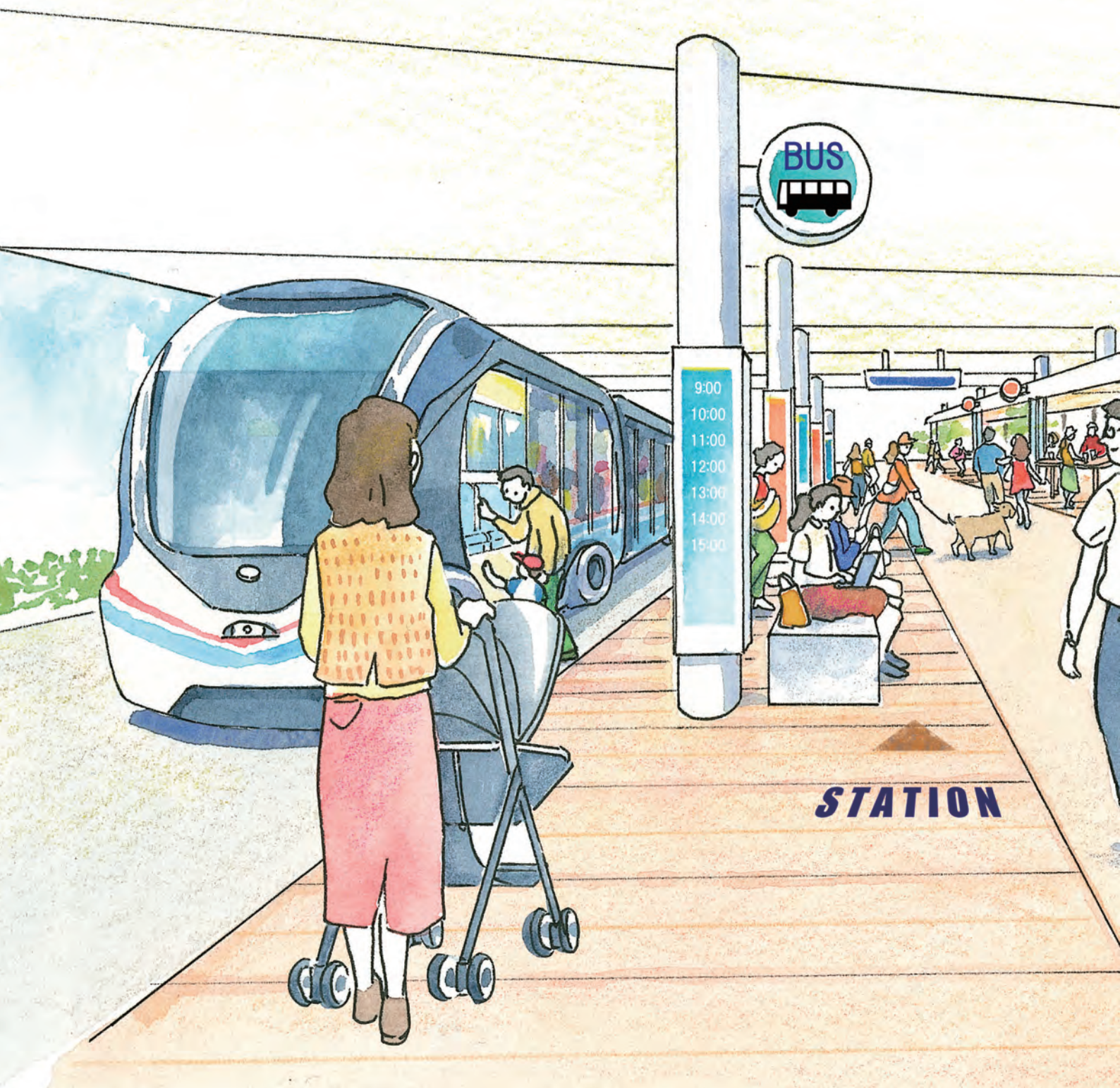
歩行者動線の確保



活気のあるストリートの断面イメージ

追浜えき・まち・みちの将来像

快適に安全に楽しく移動できるまち



鉄道、バス、タクシー等の公共交通を中心に、自動車、自転車、徒歩といったあらゆる交通手段でのアクセス性が高く、安全性の確保されたえき・まち・みち空間となっています。

また、西側に位置する住宅地や高台、企業・工場の集積エリア等から追浜駅中心地区へのアクセス性を高めるために、次世代モビリティが導入されています。

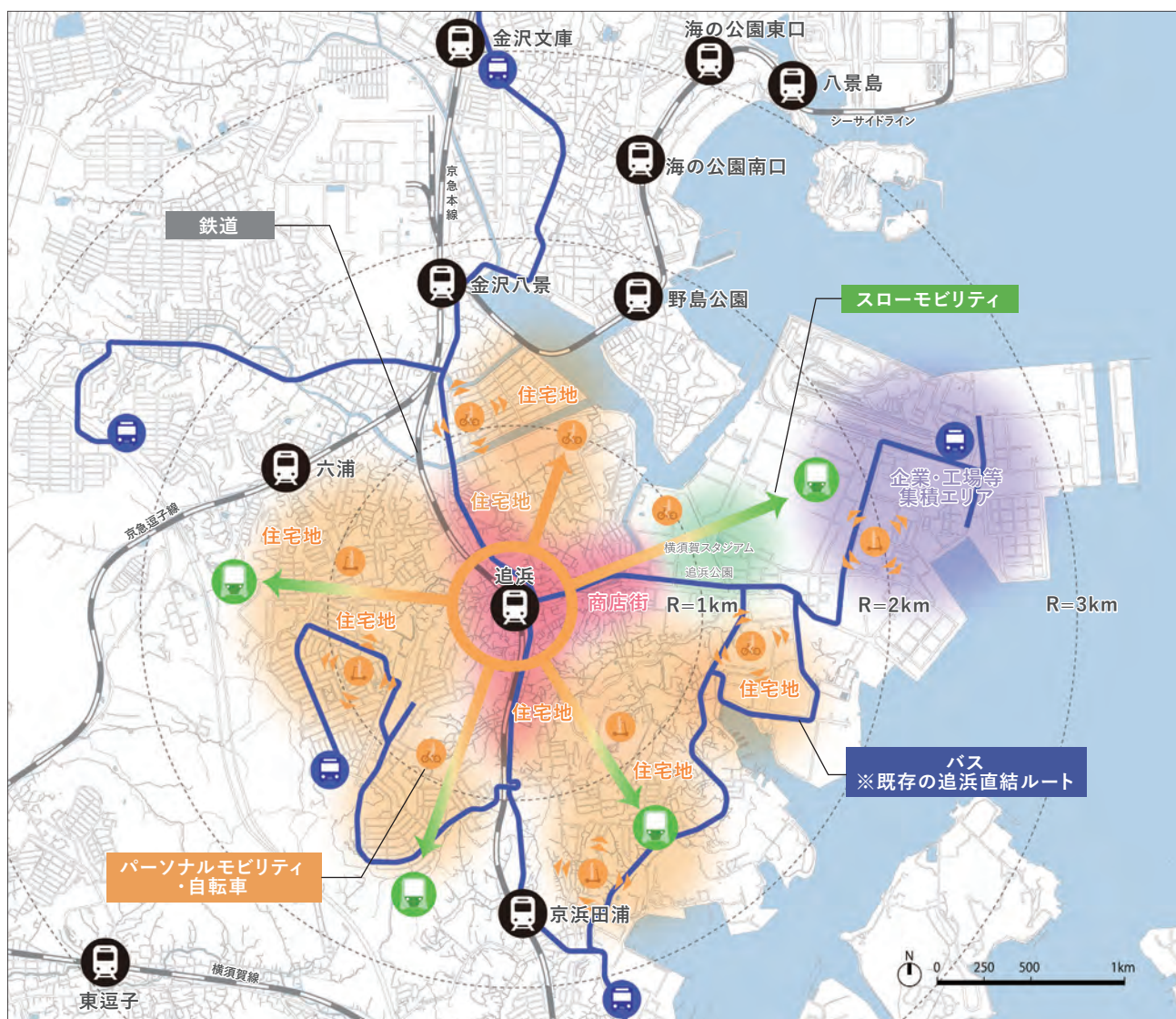
これらの交通モード全てが機能することで、回遊性の高いまちが実現されています。



快適に安全に楽しく移動できるまち

公共交通を中心に、周辺の広域一帯へアクセスしやすい移動環境となっている

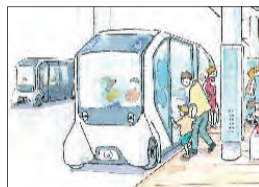
- ・公共交通やそれを補完する次世代モビリティ等の利便性が高く、環境負荷の小さい交通行動への転換が行われている。
- ・自動運転等の次世代技術を導入した持続可能な公共交通や、短距離（1～2km）を快適に移動できる自転車や小型のパーソナルモビリティ、スローモビリティが普及している。
- ・保育園や学校に向かう子どものためのスクールバス、企業・工場等に向かうワーカーのための企業バス等、各所へのアクセスが確保されている。



広域における交通接続イメージ



■小型のパーソナルモビリティ
電動キックボードや、ハンドルや体重移動で歩行支援を行う電動車いす等がある。



■グリーンスローモビリティ
時速 20km 未満で公道を走る電動パブリックモビリティで、4 名以上の乗車が可能である。

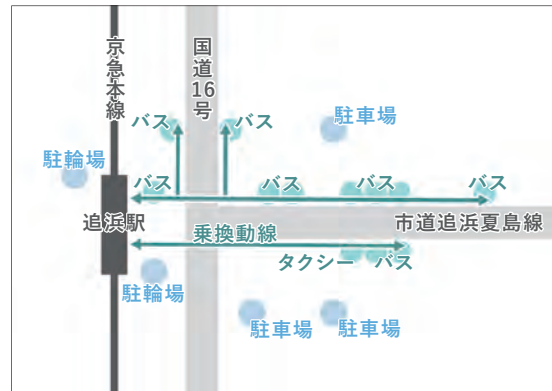
次世代モビリティの例

公共交通の乗り換えが便利で、アクセスしやすく歩きやすい空間になっている

2025 年時点の追浜駅中心地区

公共交通の乗り換えや自動車・自転車の利用が不便で、歩行者が歩きづらい。

- ・バス・タクシー乗降場が分散しており鉄道からの乗換動線が長い。
- ・駅周辺では、買い物や送迎を目的とした路上駐車が見受けられる。
- ・駐輪場が駅近くまで設置されているものの、違法駐輪が多く歩行者のための空間が不足している。
- ・歩車の交錯により、交通事故の危険性がある。



2025 年時点の追浜駅中心地区の空間形成

将来の追浜駅中心地区

各交通手段でアクセスしやすく、歩行者が歩きやすい。

■スムーズで安全な乗り換え動線の設定

- ・バス・タクシー乗降場が集約され、鉄道とバス・タクシーの乗り換え動線が短い。
- ・乗り換え動線は、バリアフリー・アンブレラフリーで利便性が高く、歩車分離されて安全性が確保されている。

■豊かな体験のあるえき・まち・みち空間の実現

- ・追浜駅中心地区に、広場や店舗、インフォメーション等が配置され、電車やバスの待ち時間も様々な交流が生まれ豊かに過ごせる空間となっている。

■自転車によるアクセス性向上

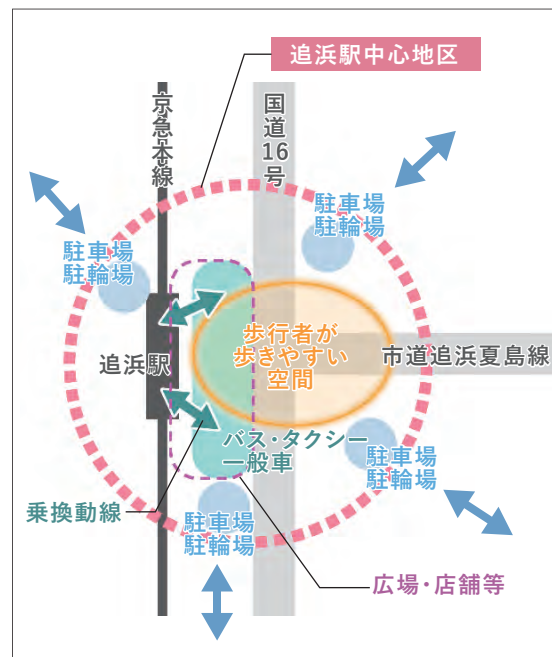
- ・適切な箇所に必要な台数の駐輪場が確保され、各方面から快適に自転車でアクセスできる。
- ・市道追浜夏島線の自転車走行空間が整備され、歩行者と自転車の安全性が確保されている。

■追浜駅中心地区への駐車場の適切な配置

- ・適切な箇所に必要な台数の駐車場が確保され、追浜駅中心地区への自動車でのアクセス性が担保されている。
- ・駐車場の配置においては、自動車動線が駅前で歩行者動線と交錯しないよう配慮されている。

■次世代モビリティが導入されたえき・まち・みち空間

- ・駅周辺から 2km 程度までの移動を支える様々な次世代モビリティに対応可能なえき・まち・みち空間となっており、鉄道、バス、自動車、自転車等の既存モビリティを補完している。



将来の追浜駅中心地区の空間形成

※図内の各施設は、正確な配置を示すものではありません。

追浜えき・まち・みちの将来像

子育てしやすく、 多世代が生活しやすいまち



緑と水の豊かな広場や公園等のパブリックスペースをまちに点在させることに加え、

仕事をしながら子どもを育てることを支援する施設や、

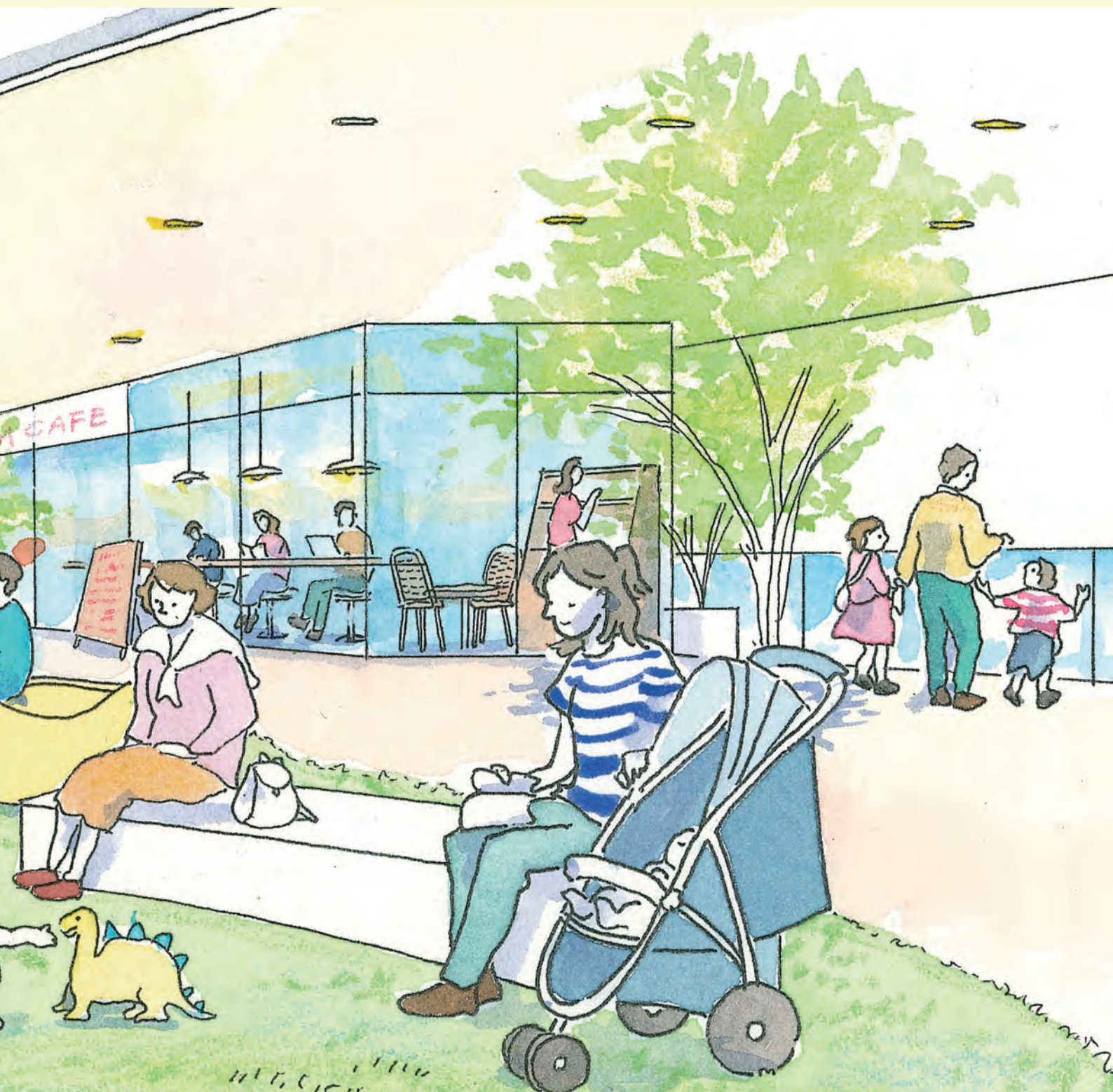
子どもたちが新しいものに触れられ、学べる場所が追浜駅中心地区に導入されています。

また、買い物・飲食環境の充実、子育て世代の交流の場、医療系の施設等の都市機能の拡充により、多様な需要に応えています。

追浜駅中心地区の交通状況の改善により安全なまちにすること、

防災や治安面においても安心できる環境をまち全体で実現することで、

子育て世代を含めた多世代から選ばれる追浜となっています。



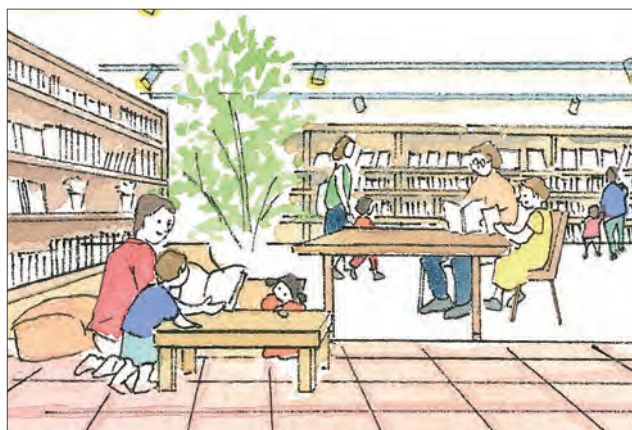
子育てしやすく、多世代が生活しやすいまち

子育て世代をはじめとした多世代の生活を支える施設がある

- ・子どもから高齢者まで、多様な世代や生活スタイルを支える複合的な機能が集積している。
- ・子育て世代が日常的に訪れたいと思える公共機能（図書館、子育て支援施設等）が導入されている。
- ・追浜駅中心地区に、子どもを連れて入りやすい飲食店や日常的に利用できる場、集まれる場があることで、追浜に住む子育て世代だけでなく、近隣やまちを訪れる多世代のニーズにも対応している。
- ・日々の買回り品や生活を支える商業施設や、医療施設等が充実しており、利便性が高く安心感がある。
- ・子どもが遊べたり、企業等と交流したり出来るパブリックスペースがある。



子育て支援施設



図書館



子どもが遊べるパブリックスペース



子育て世代も入りやすい飲食店

多様な人々が安心して過ごせる環境が、地域の協力でつくられている

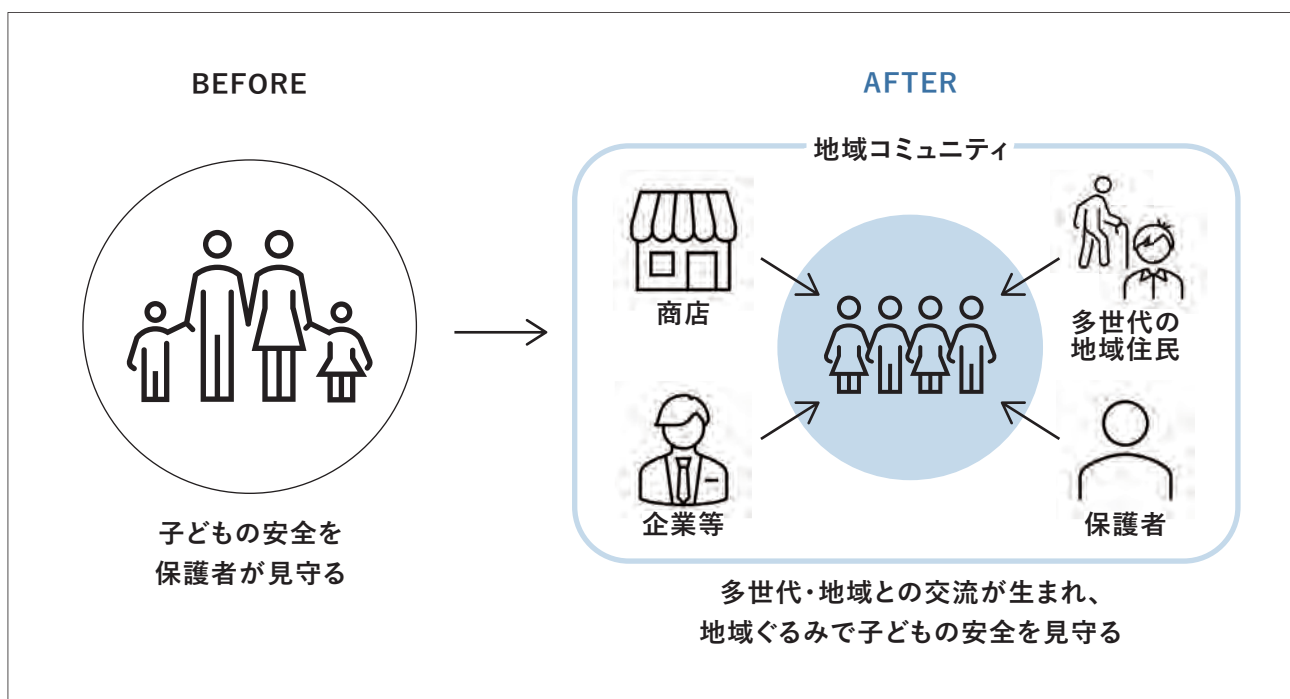
- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した空間や什器が整備され、子どもや高齢者、障がい者も含めた多様な人々が安全に移動し滞在できる。
- ・ 人の目が届かないような死角がなく見通しが良い空間となっているほか、気軽に滞在できる広場等の人目のある空間が複数確保されることで、誰もが安心して過ごせる環境となっている。
- ・ 暗い時間に外を歩いても心配が少ないように、明かりが灯る空間が連続している。
- ・ 多世代の地域住民や多様な地域主体との交流促進で地域コミュニティが形成され、地域ぐるみで子どもの安全を見守っている。



バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した空間



夜でも明るく見通しの良い空間



地域コミュニティ全体で子どもの安全を守る様子

追浜えき・まち・みちの将来像

市民 × 教育機関 × 企業等の 交流が盛んなまち





地域で親しまれているお祭りから新しい企画まで、
広場で様々な楽しいイベントが頻繁に開催されています。
多くの人が追浜駅中心地区に集まり、来街者も巻き込んで、
市民・教育機関・企業等同士や相互の交流が盛んに行われています。
また、大学・企業等の交流・コラボレーションを促す共創スペースや、
誰でも日常的に使えるフリースペースがあり、
活動や発信のための場所として活用されています。

※この絵はえき・まち・みちの将来像を示すイメージであり、具体的な場所や整備内容を示すものではありません。24

市民 × 教育機関 × 企業等の交流が盛んなまち

市民・教育機関・企業等が活動・発信できる駅前の拠点がある

■共創スペースで、各主体が日常的に活動・交流

- ・市民・教育機関・企業等が活動できる共創スペースがあり、展示ブース、多目的フリースペース、コワーキングスペース、大学のサテライトキャンパス等が設置されている。
- ・展示ブースや多目的フリースペースでは、大学や企業等による活動情報発信や交流促進イベントが行われ、人々がまちのことを知り、愛着が深まるきっかけになっている。
- ・展示ブースや多目的フリースペースは、気軽に借りられる屋内施設としても開放され、市民団体等の活動において、新たな人々を巻き込む場になっている。
- ・コワーキングスペースやサテライトキャンパスでは、各主体の特色や知見を活かした活動が行われている。活動は内部で閉じずに、主体間連携や事業創出も含めた継続的な活動として実施されている。
- ・これらのスペースは、地域の学生の自習や課外活動のためにも活用され、多世代が駅前の拠点に集える環境となっている。



大学・企業等が展示ブースで活動内容や技術を紹介



多目的フリースペースで市民活動の発表イベントを実施



コワーキングスペースでの仕事や勉強



大学がサテライトキャンパスを設置

共創スペースで行われる活動のイメージ

■広場等の人が集まる場所で、イベントを実施

- ・広場では、パブリックビューイングやマーケットイベント等、住民も来街者も集い交流できるイベントが頻繁に開催されている。
- ・市民・教育機関・企業等がイベントの企画者となり、主体間の交流を促進している。
- ・イベントは商店街と連携して実施され、まち全体の回遊性向上が図られている。



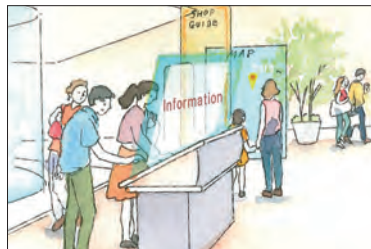
マーケットイベント



スポーツのパブリックビューイング

■まちの情報発信機能の確保

- ・広場・ターミナル・共創スペース等、まちの各所にサイネージ等が備わって情報発信が行われていることにより、まちを歩くだけで様々な情報を入手することができる。



地域情報が閲覧できる
タッチパネル式のサイネージ



商店街の案内マップを示すサイネージ

追浜の歴史や情報に触れられる場所がある

- ・自然、歴史、商店街・町内会・観光協会・スポーツチーム・企業等をはじめとする人々の活動といった追浜ならではの情報に、住民や来街者が触れられるよう、まちの各所で情報が発信されている。
- ・広場や共創スペースで市民や企業等の活動に触れられるイベントが行われ、まち歩きツアーや工場見学等の取り組みも継続・発展していることで、子どもたち含む多世代にまちの歴史や情報が浸透している。



追浜の特徴的な資源の例

追浜えき・まち・みちの将来像

緑と水を豊かに感じられるまち



駅前に降り立つと目に入る市道追浜夏島線の景観は、**追浜駅中心地区の象徴**として、
まちの活気と共に海・山・川の存在を感じられるようなデザインとなっています。

広場やストリートが緑化され居心地の良い空間となっており、道路整備に合わせて鷹取川の水を
感じられる空間が生み出されて、追浜らしい緑と水の雰囲気を感じられるまちとなっています。

このような緑と水を身近に感じられるまちづくりは、子供たちを含めた住民や来街者が、
自然環境の大切さに目を向けるきっかけにもなっています。



緑と水を豊かに感じられるまち

緑の空間があり、広域の緑の軸がつながっている

- ・ 追浜駅から追浜公園の東西方向において、広域の緑をつなぐ新たな緑の軸が形成される。身近な緑の空間を確保することで、自然環境の保全にもつながっている。
- ・ 追浜駅中心地区では、緑のある空間づくりが行われ、「横須賀市みどりの基本計画」における「みどりの拠点をつなぐ道」が実現されている。
- ・ 鷹取川では、現在暗渠となっている箇所も含め、その水脈を活かした水景が形成されている。

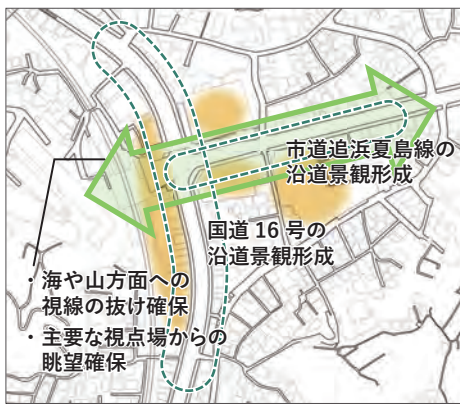


広域における水・緑の軸の繋がり、新たに形成する緑や水の空間

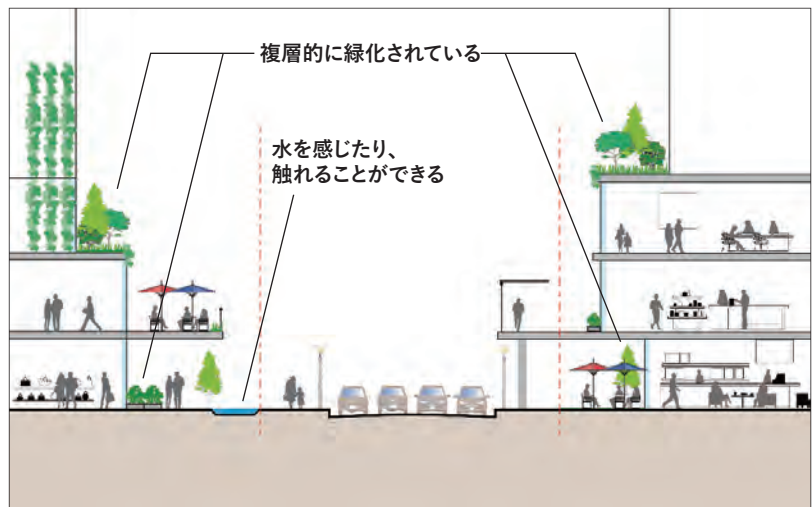
※「横須賀市みどりの基本計画」では、鷹取山公園から追浜公園にかけて、みどりの拠点をつなぐ道が位置づけられている。

緑や水を感じられる街路景観が形成されている

- ・ 山や海方面へ視線が抜ける場所があり、追浜駅中心地区の施設や周辺の高台等の主要な視点場から自然を感じられる、追浜らしい眺望が確保されている。
- ・ 1 階のセットバック空間、2 階デッキ上、建物上等にプランター等の緑化が施され、複層的に緑を感じられる豊かな沿道景観となっている。
- ・ 道路整備に合わせ、水を眺めたり触れられる空間があり、鷹取川が意識できる環境となっている。
- ・ 緑化や親水空間の整備によって暑熱対策されたクールスポットがある等、環境面の対策が施され、人々が環境問題を意識するきっかけにもなっている。



街路の景観形成と眺望の確保



街路の景観形成断面イメージ

追浜えき・まち・みちの将来像

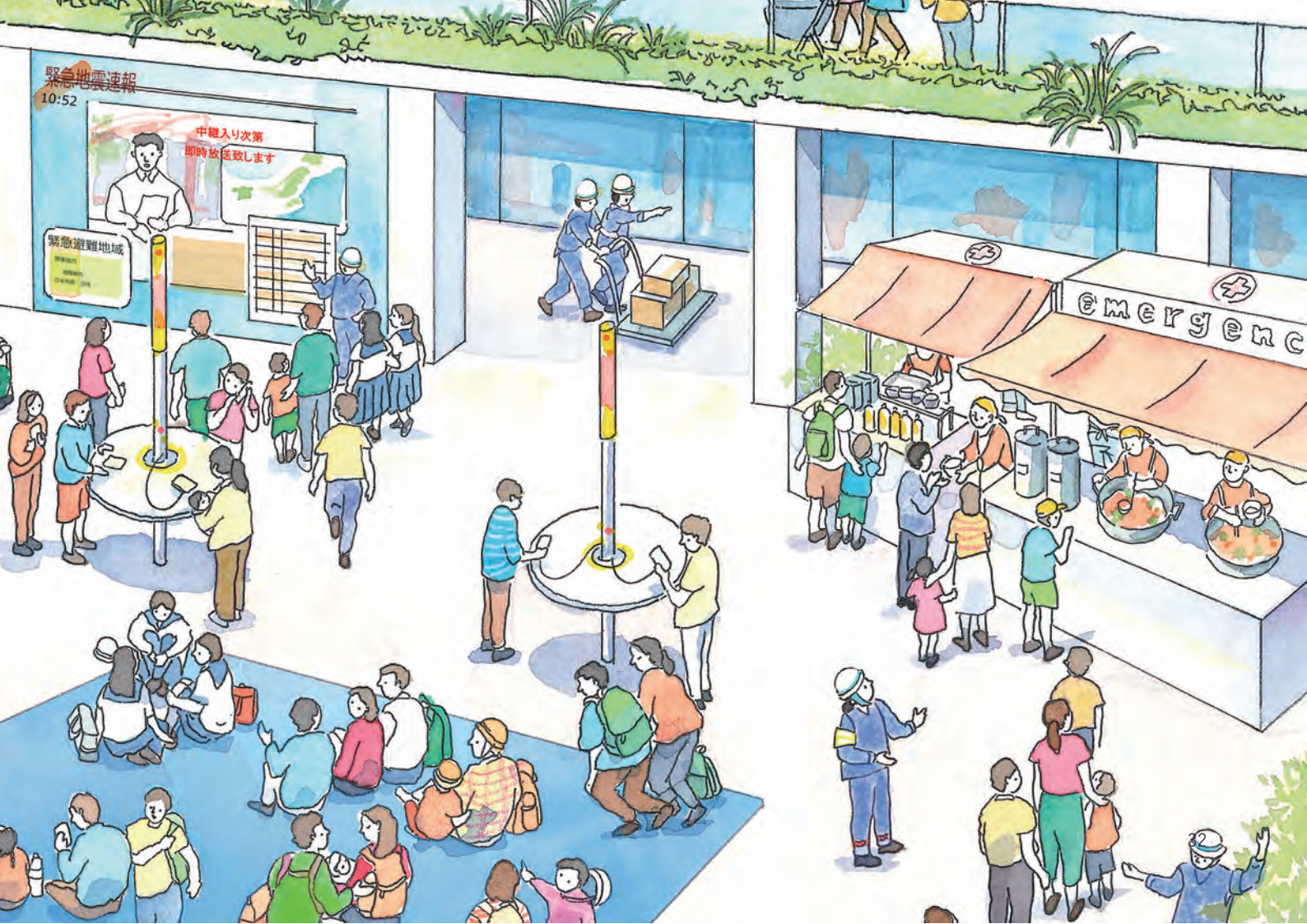
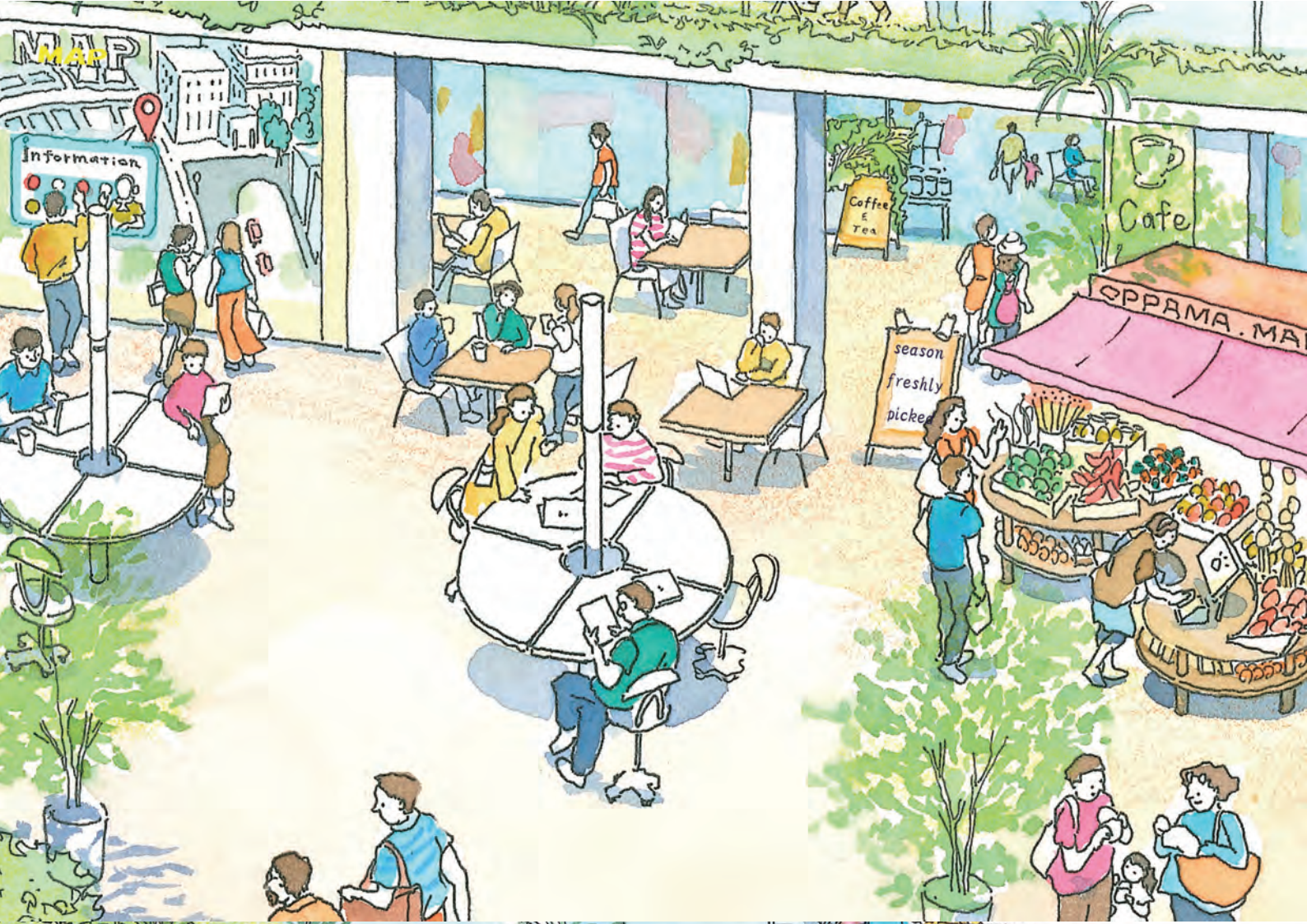
災害時も安心・安全が 確保されるまち

オープンスペースを創出することで、災害時の避難・応急対策・復旧等に必要な場所を確保するほか、再開発等により**周辺の建物の安全性が強化され**、災害時でも安全に過ごせるえき・まち・みち空間となっています。

また、**災害時に必要な情報を容易に入手でき、必要な物資が行き渡るなど**、住民・来街者を問わず安心できる環境が整えられています。

更に、**日頃からオープンスペースを活用するなど、地域のコミュニティをつなぐ活動を実施**することで、災害時の共助活動のための基盤がまちに生まれています。





災害時も安心・安全が確保されるまち

災害時の行動を支える防災拠点がある

- ・道路や鉄道が整備されており、鉄道・バス・タクシー・自動車・自転車等の交通モードが揃うモータルコネクト*拠点として災害時の行動を支える防災拠点が用意されている。
- ・パブリックスペースにサイネージ等が備わり、一時滞留場所や情報拠点として機能している。
- ・開発事業や地元企業等が連携・協力し、非常用物資の備蓄や帰宅困難者の受け入れ、電源供給等が出来るようになっている。

※モータルコネクト：基盤である道路ネットワークと多様な交通モードを連携、強化し、利用者が交通を選択しやすい環境を作ること。

■デジタルサイネージによる情報発信



出典：横須賀市

■スマートポールによる充電



出典：New York Times

■備蓄倉庫での非常用物資準備



出典：横須賀市

■帰宅困難者の受け入れ

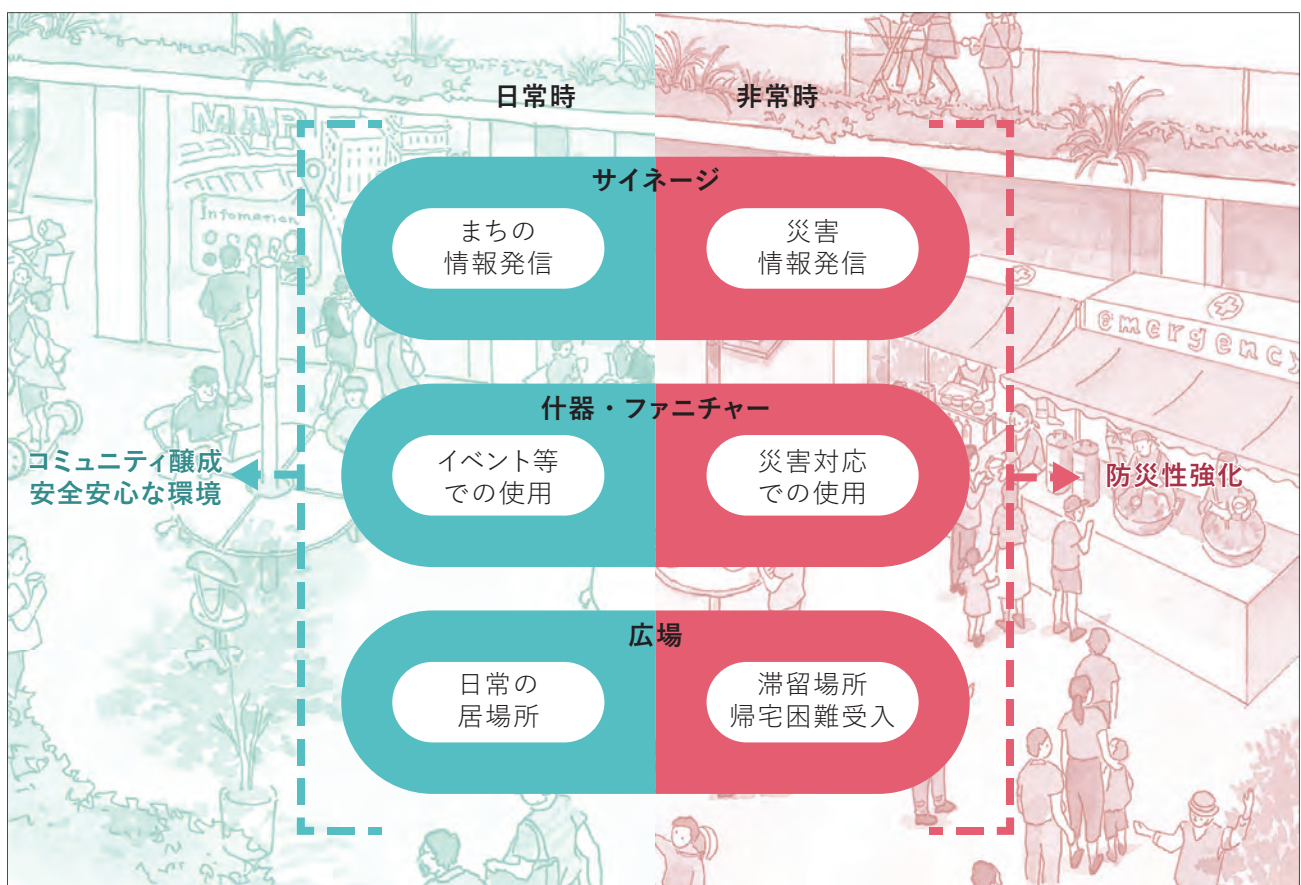


出典：さいたま市

防災時に防災拠点となるための機能イメージ

日常的に広場等を使いこなすことで、非常時にスムーズな対応ができる

- ・非常時に活躍する広場、サイネージ、什器等は、日常時やイベントの際も積極的に活用しておくことで、いつでもスムーズに使えるようになっている。
- ・日頃から広場等を活用し、安心安全な環境づくりやコミュニティの醸成、非常時の活動をリードする担い手の育成につなげることで、いざというときの人々の行動を支えられる状態となっている。
- ・地域の企業等の防災関連の取り組みが日ごろから周知され、人々の防災意識の高まりにつながっている。



日常時・災害時の用途変更について

2-3. 追浜で実現する暮らしのイメージ



追浜の工場で長く研究員をしている 60 代男性

長いこと追浜で働いていますが、ここ数年、まちの盛り上がりにはびっくりしています。商店街にはいい居酒屋が結構あったんだけど、店主が高齢を理由に店を閉めるところも増えてきて、正直さみしいまちになってきていました。それが、再開発でタワーがたったと思ったら、ちょっとずつまちが進化してきたんです。みんなで気軽にご飯を食べられるファミレスとか、若者も多いおしゃれなレストランとか。お気に入りの店もあるし、退職したら追浜に住みたいくらいだなあ。

あとは、駅前のデッキとバスが便利になったのも大きい変化です。昔はデッキの動線が悪くて、出張の人とか荷物が多いと結構文句を言っていたし、私自身もバス停まで行くのが面倒だったけど、全部すっきりまとまりました。



吹奏楽部に所属する高校 1 年生

小学校からずっと追浜の学校に通っていて、家も近所です。私の思うこのまちの魅力は、やっぱりイベントが多いこと！通りを歩行者天国にしたり、デッキ広場がメイン会場になったり、いつでもにぎやかなまちです。おっぱままつりのサンバ、マラソンイベントとかいろいろあるけれど、私が好きなのはナイトバザールです。デッキ広場と商店街でおいしい海鮮が食べられるイベントで、毎年欠かさず家族で参加しています。

ほかにも私は高校で吹奏楽をやっていて、まちなかのポケットステージで演奏する機会が結構あるんです。親にも他校の友達にも気軽に見に来てもらえる場所があるのはいいことだなと思います。



妻と 2 人の子どもと暮らす 30 代男性

私は追浜の工場で、妻は横浜方面で働いています。どちらもこの地域出身ではないですが、職場へのアクセスが良かったことと、子育ての環境に惹かれて移住しました。

朝は妻が、駅前に子どもたちを預けに行きます。通勤ルートの途中にあるのでとっても便利です。帰りは自分のほうが早いから、駅前で夕飯の買い物を済ませつつ子どもたちを迎えに行くことが多いです。全部駅前で完結してるから、忙しい子育て世代にはありがたいですね。

あと、デッキの広場は子どもたちを少し遊ばせるのにも安全だし、お友達と会うとしばらく滞在することも多いです。鷹取山や鷹取川の自然が感じられるのもいいポイントですね。防災サインもしっかりあったり、安心安全に暮らせるまちとしておすすめです。



追浜の研究所で働き始めたばかりの 20 代男性

この春に、追浜の技術研究所で働き始めました。駅前が新しくなったのは知っていたけれど、まちなかにも新しい店が増えてるみたいで、社内で情報交換しながらお店を開拓しているところです。東京から通勤していますが、災害があっても駅前に一時滞在場所が確保されていて、情報も取れると聞いているので、そんなところもありがたいなと思っています。

地域のイベントに企業が参加する機会が多いのも、このまちのいいところだと思います。駅前広場やポケットパークで開催する研究紹介イベントは、近所だけでなく東京のほうからも、結構子どもたちが集まるようになってきました。これからも海の魅力を伝えていきたいし、他の企業との連携をもっと進むといいなと思っています。



生まれた時から追浜に住んでいる近所の小学 5 年生

海も山も、自然が沢山あるところが気に入っていて、休日はよく友達の家族を誘ってバーベキューに出かけたりします。この前の週末は、家族で鷹取山にハイキングに行きました。

スポーツも盛んで、友達は野球とかサッカーをやってる子が多いです。地域の子どもはベ이스ターズの試合を見られるチャンスが多いからファンも多いし、スタジアムに行かなくても普段から駅前で試合を放映してたりするから、パパとママも気づいたら応援してたみたい。週末には、数駅先に住んでるパパとママの友達も追浜に呼んで試合を見て、帰りに近くのお店で一緒にご飯を食べたり、絶対ベ이스ターズのおかげで商店街のお店に人が増えてると思います。



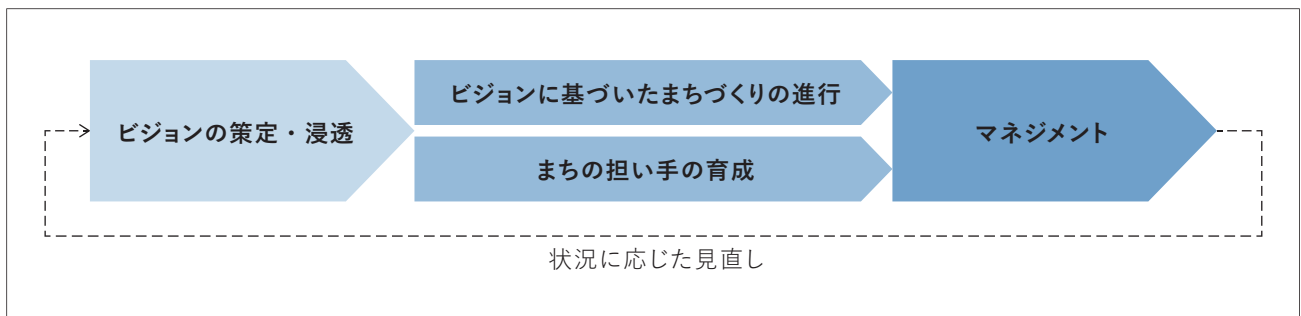
30 年前から鷹取在住の 70 代ご婦人

追浜の様々な開発が完了した後でも、昔と同じように鷹取から海まで見通せる追浜の景色が残っていることがとてもうれしいです。これからもこの風景が残りつづけていくとよいと思います。

変わってよかったところは、新しいモビリティがまちを走るようになったことですね。高低差があって移動がしにくかった駅と鷹取間も、モビリティのおかげで行きやすくなって、遠方に住む友人ともずいぶん会いやすくなりました。

3-1. 将来像の実現に向けた進め方

- ・本ビジョンの策定後も、えき・まち・みちの将来像の実現に向けて継続的な取り組みが行われるよう、ビジョンがまちへ浸透することが大切です。
- ・その上で、ビジョンに基づいたまちづくりを進行すること、まちの担い手を育成することが求められます。
- ・さらに空間の整備後は、適切なマネジメントが行われ、状況に応じてビジョンが見直されることで、持続的な追浜駅中心地区のまちづくりが実現します。

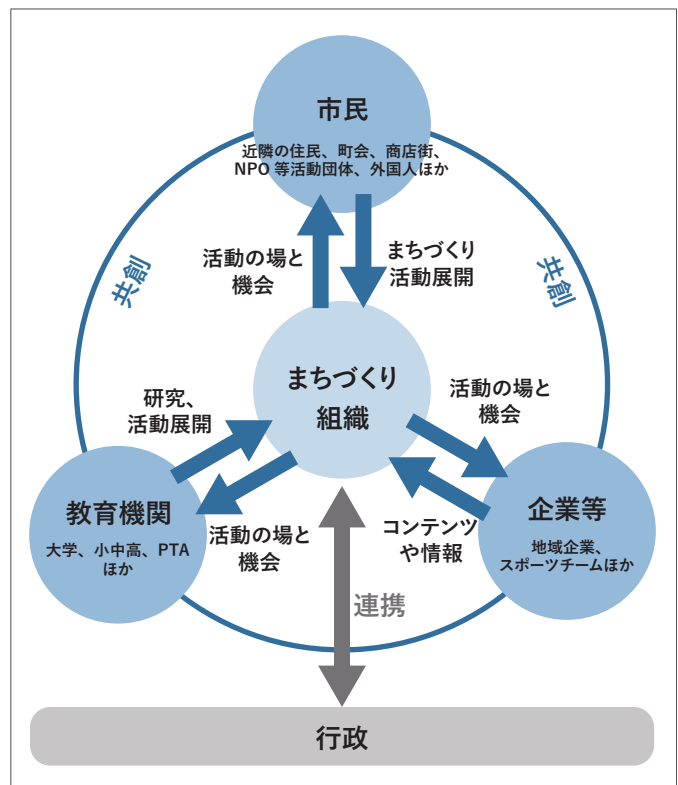


進め方のイメージ

3-2. みんなでえき・まち・みち空間を育てるためのまちづくり組織のありかた

将来像の実現のために、各主体が連携してまちづくりを推進していくためのまちづくり組織が必要です。

- ・まちづくり組織は、市民・教育機関・企業等をつなぎ、活動の場や機会を提供することで、共創を生むフラットなハブとなり、誰もがまちづくりに参加できることを目指します。
- ・市民は、まちの活動に関わりたいたいと考えたときに、それぞれの思いを実現するような活動の機会を得られるほか、短時間・短期間からでも気軽にまちの活動に関わることができます。
- ・企業等は、まちでの活動機会を得ることで市民や教育機関とつながり、認知度の向上・共創による創造的活動の機会を得ることができます。
- ・教育機関は、商店街や企業等のリアルな現場とのふれあいや共創活動により、追浜にしかない学びや実践機会を得ることができます。
- ・行政は、まちづくり組織を支援し、まちづくり組織は行政と連携を図って活動を行います。



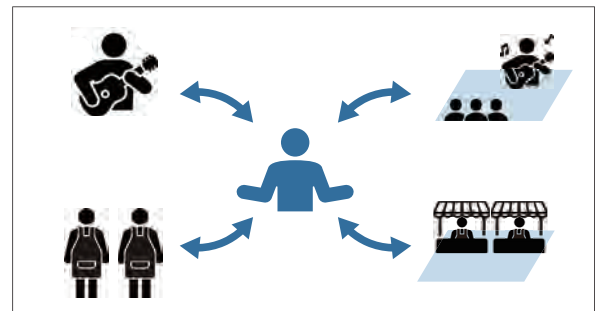
まちづくり組織と各主体の関係性

3-3. まちづくり組織の活動

- ・まちづくり組織は、本ビジョンの浸透と実現のための活動を継続するとともに、「公共空間を活用する」「地域連携のハブになる」「まちを発信する」という3つの役割を持ちます。
- ・また、持続的なまちづくり組織運営のため、活動を通じて多角的に収入が得られる仕組みの構築が求められます。（収入源の例：サイネージや掲示板等の広告設置、場所の貸出、まちづくり関連の委託事業等）

■公共空間を活用する

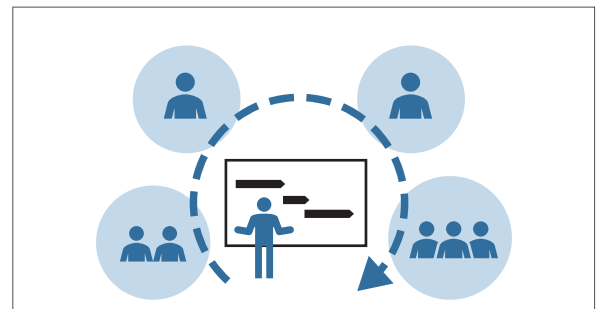
- ・公共空間が安全で活気のある場所となるよう、適切な管理運営を行う。
- ・公共空間の活用時に窓口となるほか、イベントの開催等を積極的に促しサポートすることで人々が集まれる場を創出する。



公共空間を活用する

■地域連携のハブになる

- ・各種事業の進行を把握し、事業間の適切な調整を行う。
- ・市民・教育機関・企業等の情報を集約・連携し、まちづくり活動の活性化や共創活動のサポートを行う。



地域連携のハブになる

■まちを発信する

- ・共創スペース、公共空間、WEB 等での情報発信により、市民・教育機関・企業等の活動が見える化する。
- ・学生をはじめとする若い世代と連携するなど、対外的なまちの魅力発信につながるような情報発信を図る。



まちを発信する

追浜えき・まち・みちビジョンの検討経緯

■まちの声の収集

本ビジョンは、追浜えき・まち・みちデザインセンターの拠点に寄せられた声や、シンポジウム・社会実験で実施したアンケートなどの「まちの声」をふまえて検討を行いました。



追浜えき・まち・みちデザインセンター



2024 年1月 21 日シンポジウム



2024 年10月19日(土)～25日(金)社会実験

■まちの声の収集

- ・ 追浜地域のみなさとまちの将来像について検討を行うため、「ビジョン検討委員会」「ビジョン検討ワーキング」を開催しました。
- ・ 「ビジョン検討委員会」で本ビジョンの方向性に関する議論を行い、「ビジョン検討ワーキング」ではワークショップ形式でビジョン案を深度化しました。

実施日程・議題

日程	会議名称	議題 ※DC は追浜えき・まち・みちデザインセンターを指す
2024 年 9 月 4 日	第 1 回ビジョン検討委員会	1. 委員・座長紹介 2. 委員会設置趣旨の確認 3. えき・まち・みちの将来像についてのディスカッション
2024 年 9 月 19 日	第 1 回ビジョン検討ワーキング	1. 第1回ビジョン検討委員会の振り返り 2. DC よりビジョン案（将来像・誘導方針の概要）の提案 3. ビジョン案についてのグループワークショップ
2024 年 11 月 5 日	第 2 回ビジョン検討ワーキング	1. DC よりビジョン案（将来像・誘導指針の詳細）の提案 2. ビジョン案についてのグループワークショップ
2024 年 12 月 6 日	第 2 回ビジョン検討委員会	1. DC よりビジョン案（将来像・誘導指針の詳細）の提案 2. ビジョン案についてのディスカッション
2025 年 1 月 8 日	第 3 回ビジョン検討ワーキング	1. DC よりビジョン案（全体像）の共有 2. ビジョン案についてのグループワークショップ
2025 年 3 月 14 日	第 3 回ビジョン検討委員会	1. DC よりビジョン（完成版）の共有 2. 委員によるビジョンの承認 3. ビジョンの推進に向けたディスカッション



ビジョン検討委員会の様子



ビジョン検討ワーキングの様子

■ビジョン検討の体制

ビジョン検討委員会参加者

※敬称略・順不同

日程	氏名	所属
座長	野原 卓	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授
委員	藤島 紀雄	追浜地域運営協議会 会長、追浜連合町内会 会長
	織田 俊美	追浜駅前第2街区市街地再開発組合 理事長、追浜商盛会 代表理事
	下澤 敏也	追浜観光協会 会長
	脊山 幹生	追浜工業会 会長
	強力 陽	追浜中学校PTA 会長
	香田 晃宏	国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 副所長
	工藤 久幸	横須賀市 経営企画部 まちづくり政策担当部長
	谷井 健	京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 まちづくり推進部長
事務局	追浜えき・まち・みちデザインセンター（ディレクター 芝原 貴史 ほか）	

ビジョン検討ワーキング参加者

※敬称略・順不同

	氏名	所属
参加者	野原 卓	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授
	藤島 紀雄	追浜地域運営協議会 会長、追浜連合町内会 会長
	織田 俊美	追浜駅前第2街区市街地再開発組合 理事長、追浜商盛会 代表理事
	下澤 敏也	追浜観光協会 会長
	神馬 彩夏	追浜銀座通り商店会、育児コミュニティ OPPAPAMAMAILE
	井上 道臣	追浜工業会 事務局長
	強力 陽	追浜中学校PTA 会長
	山田	国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 調査課 課長
	山室	国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 調査課 事業対策官
	塩野谷	国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 調査課 専門官
	伊藤 忠	横須賀市 経営企画部 拠点整備推進担当課長
	田中 康太郎	横須賀市 経営企画部 まちづくり政策課
	菊田 知展	京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 まちづくり推進部 課長
	関本 香帆	京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 まちづくり推進部 主査
	森本 洋治	日産自動車株式会社 追浜工場 人事総務部 総務課 シニアスペシャリスト（追浜工業会）
	角田 慎平	三菱地所レジデンス株式会社 街開発事業企画二部 企画第三グループ グループマネージャー（追浜駅前第2街区市街地再開発組合事務局）
	半澤 健志	三菱地所レジデンス株式会社 街開発事業企画二部 企画第三グループ リーダー（追浜駅前第2街区市街地再開発組合事務局）
	大嶋 日緒菜	三菱地所レジデンス株式会社 街開発事業企画二部 企画第三グループ（追浜駅前第2街区市街地再開発組合事務局）
事務局	追浜えき・まち・みちデザインセンター（ディレクター 芝原 貴史 ほか）	

OPPAMA
えき・まち・みち
DESIGN
CENTER

2025 年 3 月
追浜えき・まち・みちデザインセンター